災害時のトイレ対策

資料４－２

１施設のトイレをチェック

* 室内が安全ではない

(落下物など危険個所がある)

* 便器が使用可能な状態ではない

(便座やタンクなどが破損している)

１つでも☑があれば、

**施設のトイレは**

**使用しない！**

→災害用トイレ\*を設置

　(\*仮設トイレ、

簡易トイレなど)

* 下水が流れない

・排水管から漏水する

・汚水マスやマンホールからあふれる

・上階から水を流すと

下の階のトイレからあふれる

☑でも、簡易トイレ（便器にビニル袋を付け、使用の度に取り換える）として対応することも可能。

* 水(上水)が出ない、

または周辺が断水している

☑なら、２へ

すべての項目でチェックがなければ（安全で、上下水も使用可能）、

施設のトイレを使用する

２水の確保

* 近くにプールや河川があり、

トイレの水(流し用\*)として

使用できる。

\*手洗いには使わない

水が確保できなくても、簡易トイレ（便器にビニル袋を付け、使用の度に取り換える）として対応することも可能。

水が確保できれば、バケツなどに汲み置きして施設のトイレを使用する

　(使用の際は、「トイレを使うときの注意」を掲示)

３トイレの設置

（１）トイレの数：以下の例を参考に、トイレの数の確保に努める。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 区分 | 設置数の例 | 参考・出展 |
| 内閣府の  ガイドライン | 災害発生当初:1基/避難者約50人  避難長期化する場合:1基/避難者約20人 | 避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン(H28.4)  内閣府（防災担当） |
| 災害時の実例  (阪神・淡路大震災) | 約75人に１基  (上記の数を設置したところ、苦情がほとんどなくなる) | 避難所等におけるトイレ対策の手引き(H26.4)  兵庫県、避難所等におけるトイレ対策検討会 |
| 一般的なトイレの設置基準  (事務所の例) | 男性用大便所：60人以内ごとに１個以上  男性用小便器：30人以内ごとに１個以上  女性用便所　：20人以内に１個以上 | 事務所衛生基準規則 |

（２）男女別に分ける

* 男女別に区分けし、男性、女性のマークをつけて表示する。
* 防犯上、可能であれば男性用と女性用は離して設置する。
* 女性用にはサニタリーボックス(ふた付きごみ箱)を設置する。
* できれば使用時間を考慮し、女性用のトイレの数を多めに設置する。（女性用:男性用の割合は３：１目安）

（３）要配慮者用トイレの設置

* 避難所運営のために必要な部屋・場所の「要配慮者用トイレ」欄を参考に、トイレの使用で配慮が必要な人専用のトイレを設置する。
* マークなどを活用し、要配慮者が優先使用することを明確に表示する。

（４）その他

* 安全面を考慮し、人目につきやすい場所に設置する。
* 夜間でも使用できるようトイレの内外に照明を設置する。
* 防犯対策（個室は施錠可能なものとする。防犯ブザーを設置）を実施する。
* 屋外なら、トイレを待つ人のための屋根や椅子を設置する。
* トイレの使用待ちの行列のための目隠し

を設置する。

* 「使用中」の札を下げる。

避難所に設置された仮設トイレ(東日本大震災：宮城県多賀城市の総合体育館)

**＜災害用トイレ(仮設トイレ)設置例＞**

トイレの→

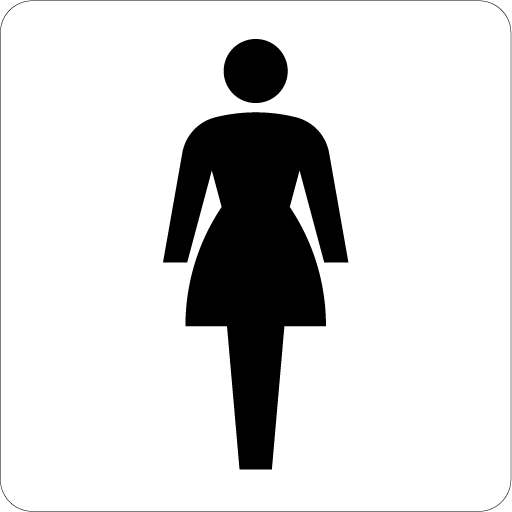
中と外に

照明を設置

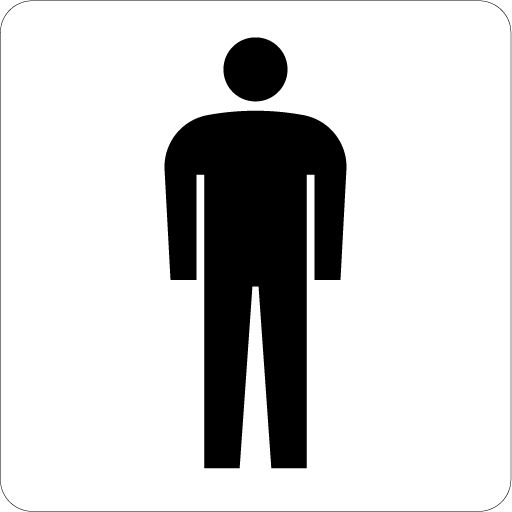
使用中

サニタリー

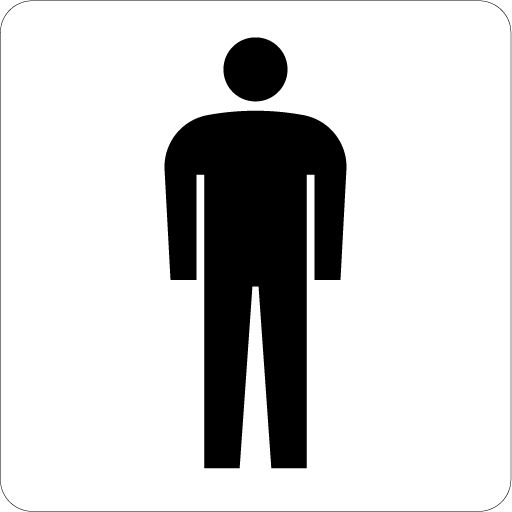
ボックス



空



使用中



発電機

マークを表示

「使用中」の札を下げる

４トイレの衛生対策

↓ふた付き

（１）トイレットペーパーや生理用品、おむつの捨て方

ごみ袋

し尿処理量を減らし、流す水を節約するため、使用済みのトイレットペーパーや生理用品、おむつは、専用のふた付きごみ箱（足踏み開閉式がのぞましい）に入れる。

ごみ箱からのにおいに注意し、ごみは定期的に処分する。

（２）トイレ後の手洗い

避難所内で感染症を広げないよう、トイレ使用後の手洗いを徹底する。

生活用水として使用できる水がある場合は、蛇口つきタンクを活用し、簡易手洗い場を設置する。

水がない場合は、ウェットティッシュや消毒用アルコールを使用する。

（３）トイレ用の履物

トイレの汚染を避難所利用者の生活場所に持ち込まないよう、「トイレ用スリッパ」などを使用し、トイレの内外で履物を分ける。

（４）トイレの清掃

トイレの清掃は、避難所利用者自身が交替で毎日実施する。

（５）し尿の保管、管理

簡易トイレや仮設トイレなどでし尿が満杯になった場合は、市町村によるし尿の回収が始まるまでの間、避難所利用者の生活場所から離れた場所で、できるだけ密閉した状態で保管する。

このほか、避難所のトイレの確保・管理については、

「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（平成２８年４月内閣府（防災担当））も参考にすること。

避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン

http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/

トイレをうときの　既存トイレが使用可能で水が確保できた場合

* トイレットペーパーはにさず、えけのゴミにててください。トイレにすとまるになります。

てたは、ゴミのふたをずめてください。

* トイレをったら、バケツの（し）でしてください。みんながうなので、をがけましょう。
* バケツの（し）が なくなりそうなときは、いたたちがして、をくんできましょう。
* バケツの（し）はいにはわないでください。

いは、いにえけた(い)をってください。

* みんながうトイレなので、きれいにいましょう。
* トイレのは、をするが、でいます。をし、していましょう。

トイレをうときの　災害用トイレを使う場合

* トイレをうに、ノックやをかけるなどして、にがいないかかめてから入りましょう。トイレには、にあるを「」にしてからりましょう。
* トイレをったら、のそばにあるレバーをまわして、せつをしてください。（レバーつきののみ）
* トイレの（にまたがるところ）には、２人でらないでください。

がな方は、トイレをってください。

* トイレは、のなやえがななどがにえるよう、なるべくトイレをってください。
* みんながうトイレなので、きれいにいましょう。
* せつがたまってきたら、いたがにしてください。（にみりをするため）

トイレの清掃当番がやること

マスク、手袋、前掛けなど　（使い捨てできるものを利用）

装備

掃除

道具

ぞうきん、バケツ、洗剤、ビニル袋、ごみ袋、新聞紙などのいらない紙

消毒液（水１Lに台所用塩素系漂白剤24ml(キャップ１杯)を混ぜる）など

① 入口のドアや窓を開けて、換気する

② 汚物をとる

* + 汚物は新聞紙などで包んで取り、ビニル袋に入れる。
  + 汚物を入れたビニル袋に消毒液を入れて密封し、ごみ袋に入れる。

③ 高いところから順番に、拭き掃除をする

④ 床掃除をする

⑤ 個室内や便器の掃除をする

* + 消毒液で濡らしたぞうきんなどで、汚れの少ない場所から順に拭く。

（例：便座→ふた→タンク→便器の外側）

* + 詰まり以外の原因で流れていない汚物があればバケツなどの水で流す。（例：和式では２～３Ｌの水を上から勢いよく流し込む。）
  + 水が流れる場合は塩素系洗剤を便器内にかけ、数分後に水で流す。

⑥ 人の手が触れる部分の掃除する

* + ドアノブ、手すり、水洗レバーなど人の手が触れる部分を、これまでの手順で使用していない消毒液で濡らしたぞうきんなどで拭く。
  + 手洗い場の水アカなどをふき取る。

⑦ 消耗品の補充・設置

* + 掃除用の手袋を外側が内側になるように外し、ごみ袋に入れる。
  + トイレットペーパー、消臭剤、手洗い用の消毒液などを補充・設置する。

① マスク、手袋、前掛けなど着用していたものをごみ袋に入れ、トイレから出たごみと同じ場所に置く。

② 泥落としマットなどで靴の汚れを落とし、消毒液をしみこませたマットで靴の裏を消毒する。

③ 石けんで１分間、よく手を洗う。（指先、指の間、親指のまわり、手首などを念入りに！）水がない場合は手指消毒用アルコールを使う。

④ うがいをする。

衛生・安全のため、袋を二重にして持ち運び、他のごみと混ざらないように注意する。(トイレ用のごみ置き場は予め決め、わかるようにしておく。)

トイレから出たごみの処理

後片付け